

第5回鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会 会議録

- 日 時 令和7年7月10日（木） 午後2時～午後4時5分
- 会 場 鶴岡市役所 大会議室
- 出席委員
上田和義／一関美子／渡辺真美／大滝忠／佐藤正和／田中英嗣／富樫繁朋／本間久士
／長谷川玲子／今野喜行／丹治亜香音／阿部真一
- 欠席委員 櫻井孝輔／本間妃織
- アドバイザー 仲綾子
- 市側出席職員
鶴岡市長 皆川治／企画部長 上野修／健康福祉部長 菅原青／建設部長 坂井正則／
政策企画課若者・子育て世代応援推進室長 本間育子／子育て推進課長 成沢真紀／同
課主幹 五十嵐雄／都市計画課長 岡本臣市／同課主幹兼鼠ヶ関IC周辺施設整備推進
室長 柿崎勇夫／同課課長補佐 本間仁／子育て推進課主査 上野和義／同課専門員
今井恭／同課主事 高木康輔／政策企画課主事 菅原拓磨／子育て推進課主事 石黒心
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 6人
- 協議・報告事項等
(1)こどもの遊び場利用料軽減実証事業の補正予算案の審議結果について（資料1）
(2)こどもの遊び場整備構想の策定について（資料2）
(3)プレーパーク整備について（資料3）
(4)令和7年度の公園遊具の整備について（資料4）

1 開会 事務局（子育て推進課主幹）

2 挨拶 （鶴岡市長）

3 報告〈議長：委員長〉

- (1) こどもの遊び場利用料軽減実証事業の補正予算案の審議結果について

議長

- (1) こどもの遊び場利用料軽減実証事業の補正予算案の審議結果について、事務局の説明をお願いします。

事務局（子育て推進課長）

こどもの遊び場利用料軽減実証事業の補正予算案の審議結果について、資料1により説明。

3月議会や4月に開催した本協議会での意見を踏まえ、遊びに関連する地域資源のリストアップや、利用料軽減の対象施設を公募・選定する仕組みの構築が必要と考え、屋内の3施設の利用料軽減やアンケート・ヒアリング調査等を通じて、遊び場検討の基礎資料とする実証事業を行うための補正予算案を、6月議会に提案した。

議会では、補正予算案から利用料軽減実証事業を削除する修正案が議員から提出され、賛成多数で可決、利用料軽減実証事業の補正予算案は認められなかった。

今後は、議会での意見の分析を行いながら、遊び場整備構想を策定する中で、利用料軽減の手法等について検討を進めていく。

議長

ただいまの報告について、確認や意見等あればお話いただきたい。

委員

具体的にどのような形で否決されたのか、可能な範囲で説明をお願いしたい。

事務局（子育て推進課長）

議会では賛否両方の意見があり、補正予算案に賛成の意見としては、無料で遊べる屋内施設を求める市民要望に基づいたものである、実証事業で得たデータを将来の本格的な整備に活かしていくことが大事、などの意見があった。

反対の意見としては、予算要求を踏まえた実証期間にすべき、受益者負担や利用回数制限により公平性を保つべき、などの意見があった。

これらの意見を踏まえて審議の結果、補正予算案は認められなかった。

議長

当初の提案内容に対する議会の意見を受けて、その対応として考えたのが資料2ページに記載の対応案になる。

委員

対応案を出して、内容を変えれば何とかあったのか。

事務局（子育て推進課長）

対応案は、議会の指摘を取り入れて対応していく考え方を示したものだが、内容について説明もしていないため、議会では審議されなかった。

議長

この対応案は、市の原案に対して賛成してもらえるのであればこういった対応を行うという提案だったが、結果的に賛同を得られなかった。

委員

3施設で実施することを提案したが、もっと全体的に見るよと云うことであれば結構だが、反対の理由はそういうことではないのかなと思いつながら聞いていたが。

事務局（子育て推進課長）

実証事業として3施設で実施し、今後は公募で実施したいという説明はしたが、もっと広範囲で実施すべきとの意見はあった。

事務局（健康福祉部長）

資料の対応案は具体的に議会から指摘を受けた事項。予算はトータルで示しているが、その時点では議会における審議の俎上に上がらなかったため、そのままになってしまったの。

委員

前は1票差だったが、今回は反対が増えている。どういふ理由で変わったのか。

事務局（子育て推進課長）

前は提案に賛成していただいたが今回反対された議員からは、検討期間が短く課題が残っているのではないかという意見があり、いくつかの指摘を受けた。

主な指摘は、予算要求の時期を踏まえた実証期間にすべき、スパールの一部が冬期閉鎖になるため適切な実証ができないのではないか、受益者負担も検討していくべき、など。

委員

我々委員としては腑に落ちないところもあるが、本当にこのような判断でいいのかというのが本音。こどものことを考えて、こどもから元気をもらってみんな元気になっていく街でない。残念でしかない。

4 協議

(1) こどもの遊び場整備構想の策定について

議長

(1) こどもの遊び場整備構想の策定について、事務局の説明をお願いします。

事務局（子育て推進課長）

こどもの遊び場整備構想の策定について資料2により説明。

「遊びに本気宣言！」実現に向け、遊び場整備の具体的な手法やプロセスを示す整備構想を策定する。

構想の構成案は、構想の目的、市が提供する遊びや遊び場、遊び場の現状、整備の手法、対象施設や整備内容と考えており、半年くらいかけて素案をまとめ、次回協議会で意見を伺い、年度末までに策定する予定。

議長

議会からも「遊びに本気宣言！」はあるが構想がないという指摘があった。担当者として、構想づくりの中でどこが一番難しいと思っているか。

事務局（子育て推進課長）

一つは、遊びをどのように定義するか。考え方は人それぞれであり、皆さんに理解いただけるように定義していくことが難しいと考えている。

また、それぞれの整備のプロセスをどのように進めていくかについても、様々な検討をしていかなければならないと思う。

また、資料の案で抜けている視点がないかどうかも気になっている。

議長

議会とのやりとりでも「遊び」についてスキー場やスケート場に言及される言葉もあり、「遊び」を定義することは非常に難しいと思う。また、今後対象施設の公募や選定を考えなくては行けないが、その基準も必要になるので、遊びを定義することは必要と考える。

遊び場整備構想の策定について、どのように考えるかお話いただきたい。

委員

整備構想の策定は、この協議会と切り離して考えることはできないか。この協議会は、子どもをどうやって遊ばせるかなど、子どもの遊び場のことを考える場なので、子ども目線でもっとシンプルに、子どもが喜ぶような話し合いをしたい。対象とする相手は市議会ではなく子どもなので、大人が遊び心を持ち、各委員の自由な発想で、楽しいと思える意見で進めていくことができないか。

また、できれば難しい言葉ではなく、子どもや親御さんから楽しみにしてもらえるような計画や情報発信ができたらいいいのではないか。

事務局（子育て推進課長）

構想案は事務局で考え、それに対して、様々な視点から委員の意見をいただければと考えている。

議長

皆さんの自由な発言の中で、構想策定に活用できるものは組み入れていくというスタンスで取り組んでいく。

委員

話が前後するが、キッズドームソライ、小堅ランド、スパールの件は、もう市議会にはアタックしないということか。

事務局（子育て推進課長）

6月と同じような形でのアタックは考えていない。透明性を高めるために利用料軽減の対象施設を公募・選定する仕組みを考え、形を変えて利用料軽減を進めていきたい。

委員

「遊び」を定義することより、「遊び場」の共通理解が必要ではないか。この協議会で考えている遊び場と、子育て世代が考える遊び場は違いがあると思う。協議会は、議会を通すためではなく、鶴岡の子どもたちのためにどのような遊び場が必要かを話し合う場であり、これまで何のために時間をかけて話し合ってきたかを考えると、子どもが自由に遊びに行くことができ、親も安心して遊ばせることができる「遊び場」を定義していくことの方が大事だと思う。

事務局（子育て推進課長）

「遊び」を定義することが「遊び場」の定義にもつながっていくと考えていたが、いま必要とされている遊び場がどういうものかを第一に考えていくことも必要と思う。

議長

皆さんから意見をいただきながら、基準をもって3施設を選び議会に提案したが、もう少し広範囲で公募もしてみたら、という議会からの提案があったので、遊び場について、引き続き皆さんとよく協議をして、どのような広がりがあるか意見をいただきたい。

仲先生から、日頃考えている遊び場の定義を改めてご説明いただきたい。

仲アドバイザー

今回の議会の件は大変残念に思った。これまで熱心に議論を重ねてきたが、この協議会の存在価値自体を否定されているような気持ちにさえなった。1回目に否決された後の議論を踏まえて2回目のアタックをしたが、議論が本質から離れて後退していくような、残念な思いがある。

委員からも指摘があったように、議会のインパクトが大きかったので、どうしても議会をどう通すかということを考えがちだが、私達が大事に見据えるべきことは子ども達だということを変更して教えていただいたので、その議論がここでできるといい。

遊びの定義は難しく、「こどもの遊びの定義についての決定版はまだない」と言われていたり、「定義をする人の数だけ定義がある」と本に書かれていたり、人それぞれ考え方があり、誰もが納得する定義を作ろうとすると、構想の策定も上手くいかないし、言葉尻を捉

えて反対する人が出てくるので、定義をすることに主眼を置かず、公募の仕組みを作り、その選定基準にするための便宜的な手法でいい。

もう一つ大事なことは、委員ご指摘のように、「遊び」の定義ではなく「遊び場」の定義ではないか。公募したいのは「遊びの質」ではなく「遊び場」なので、遊び場の選定基準という捉え方をすると議論が具体的に進みやすくなると思う。本質的に、鶴岡のこどもの遊びをどうするかという議論をこの場ですることが一番大事なことだと思う。

議長

遊びの定義にこだわっていたが、選定基準として便宜的に言葉を置くというお話に、もう少し肩の荷を下ろして気軽に考えてもいいと改めて思った。

皆川市長

改めて、本質を捉えた議論を委員の皆様にしていただくことが大事だと思った。

鶴岡市の遊び場の話をしているので、どこにあるどの遊び場をどうしていくのか、具体的な施設をあげながら議論をしていかないと、構想づくりは進まないと思う。協議会では、本質を捉えた骨太な議論を展開していただき、事務的な作業は職員が行うという視点で意見を出していただきたい。

(2) プレーパーク整備について

議長

具体的に現在検討を進めている取組として、(2) プレーパーク整備について事務局の説明をお願いします。

事務局（子育て推進課長）

プレーパーク整備について資料3により説明。

旧朝陽二小跡地に第二学区コミュニティセンターを移転改築し、中央児童館と連携したコミュニティ・子育て拠点整備事業が進められており、この中でプレーパークの整備を予定している。

今年度はプレーパーク整備計画を策定し、来年度に設計、9年度から10年度にかけて工事を行い、10年度供用開始の予定。

このほか、プレーリーダー養成研修会と一日プレーパークを実施することになっている。

議長

事務局として課題や検討事項として考えていることはあるか。

事務局（子育て推進課長）

プレーパークを運営していくために、遊び場を担うプレーリーダーが必要になるが、この人材をどのように育成していくか、また、プレーパークの運営形態をどうするかが検討課題と考えている。

議長

ボーイスカウトやレクリエーション協会の方々は、プレーリーダーとは違うか。

事務局（子育て推進課長）

似ているところはあると思うが、プレーリーダーは、子ども達の自由な発想で遊ばせるというところで、それなりのスキルなどが必要になってくると思う。

議長

プレーパーク整備について、提案や確認等あればお話いただきたい。

委員

ボーイスカウトの現役リーダーをしている。ボーイスカウトも自然の中で冒険遊び的なことをやっているの、プレーパークと似たところはある。

プレーパークの遊びは、そこにある物を使って子ども達が自由に遊ぶということで、昔のガキ大将がいた頃の色合いだと思う。危険を伴うため、安全の見守りや遊びの仕掛けを大人が担い、あとは子ども達の自主性に任せるということなので、あまり整備し過ぎずに、ある程度自由度のある遊び場を作っていたきたい。

遊びの仕掛けをするには、自然体験や自然の中での遊びの経験のある方がいれば、遊びを発展させることができると思う。プレーリーダーの養成講座に参加する人は興味や関心がある方なので、その人達でプレーパークの運営に関わる組織を作るという考え方もある。

中央児童館の裏の広場だけでなく、空き地になっている方まで広げてプレーパークを整備し、周囲にジョギングやウォーキングができるコースや、コミセンと中央児童館の間にイベント広場の様なものを作るといいのではないかな。

議長

プレーパークに対する皆さんの期待や可能性についてお話いただきたい。

委員

子どもとよく公園などに行くが、子どもが何を求めているか聞くと、外で遊ぶ場所が少ないと言う。プレーパークに色々なことを集約して遊びの拠点になるような整備をし、子ども達や地域の方々に利用してもらえる場所になればいいと思う。

委員

ウォーキングコースなどがあると、年代を問わず大人も子どもも利用できると思う。

水遊びができるところも加えてもらえるといい。以前市役所近くにあった児童遊園に小さな川があり、そこでよく遊んでいた。水の事故も報道されるので、安全に水遊びができる施設があるといいと思う。

議長

いま鶴岡公園で水遊びができる取組をしているので、建設部長から説明をお願いします。

事務局（建設部長）

鶴岡公園二の丸広場の一角に、7月4日から8月末まで水遊び場を設置している。昨年度よりも面積を2倍にし、人感センサーの近くを通ると床から一定時間噴水が出てくる仕掛けになっている。昨年度のアンケートでの意見を取り入れながら実施している。

委員

以前保護者を対象に行ったアンケートでの意見をプレーパーク整備に反映させるといいのではないか。年齢別の安全性や家族との一体感が持てるスペースなどを求める声があり、それらの意見を上手に反映させ、「遊びに本気宣言！」の要素を混ぜながら整備していくと、子どもの遊びに対する共通のイメージが芽生えるのではないかと思う。

また、ここで育った人材が旧町村の小さな拠点に配置されていけば、各地にプレーパークが出来てくると思う。郊外地は自然の丘や川など、プレーパークに必要な要素があるので、そこを整備して安全性を担保していけば低コストでできる。旧町村に出来れば、温海の人が藤島に行ってみようというように、市内でプレーパークを行き来できるネットワークが広がり、緩やかに交流するというのもいいのではないか。

議長

プレーパークで育てた人材を地域にも広げて、遊び場の可能性があるところをプレーパークなどに仕立てていくという、広がりのあるお話だったが、これについて事務局の考えは。

事務局（子育て推進課長）

希望としては、中央児童館のプレーパーク1ヶ所で終わりではなく、色々な場所に広げていけたらと考えている。現在、職員が地域の資源探しを少しずつやっている。朝日のつり橋や赤川の川原、温海の海など、すぐ活用できそうな資源がたくさんあるので、そうしたものを活用しながら遊び場を展開していきたい。

事務局（建設部長）

現在、道の駅温海の整備事業を行っており、その中で、子どもの遊び場空間として、大型

遊具をメインとする空間や、プレーパークのように自由な発想で遊ぶことのできる親水広場を設ける計画をしているので、情報提供をさせていただく。

議長

委員のお話にあった保護者のアンケートは、ぜひ施設整備の中で活用していきたいと思っている。

委員

道の駅の会議に何度か出席しており、ハードは良いものができるイメージできるが、プレーリーダーのようなソフトの部分が次の議論になっているようだった。例えば中央児童館のプレーパークと連携してネットワークにできるといい。

親水広場整備は予算が限られていると思うが、川に触れる貴重な空間になると思うので、ぜひ道の駅と親和性が保てるようなものにしていただきたい。

委員

ソライのような大型の屋内遊び場だけでなく、小堅ランドのような、地域の近くにある遊び場がとてもいいと思う。市有施設や閉校になって使わなくなった学校をはじめ、地域の資源をリストアップして、地域のあまり広くない範囲の中に屋内・屋外の遊び場を整備できるといい。

中央児童館のプレーパークにプレーリーダーの組織ができ、そこがセンター的な機能をもって地域の遊び場にプレーリーダーの派遣やアドバイスをするなど、組織的な構築もできるのではないかと思う。

議長

遊び場の候補地はたくさんあると思うので、しっかり調査をしていきたい。

委員

4月に3人目のこどもが生まれた。こども達を公園や山、海に連れて行きたいが、0歳のこどもを連れて自然体験に行くのは難しい。プレーリーダーにこどもを預けられるのかわからないが、もし上の子をプレーリーダーなどに預けられれば、上の子はプレーパークで遊び、下の子は屋内の児童館で遊ぶということもできていいと思った。

また、周りのお母さんたちは鶴岡市や児童館のインスタグラムをよく見ている。観光客向けのインスタグラムだと思うが、市民向けの周知もしてほしい。

事務局（子育て推進課長）

市民向けの周知としては、子育てアプリ「母子モ」があるが、まだまだ情報発信が足りないと反省しているので、一層取り組んでいきたい。

事務局（建設部長）

市ホームページでの公園の情報発信をレベルアップしたので紹介する。

これまでは、大きい公園については、鶴岡公園、赤川河川緑地、大山公園の3公園のみの情報提供を行っていたが、今年度からは10カ所追加して、13公園の情報を写真付き等で紹介している。

また、小規模公園については、これまでは公園名と所在地だけの情報提供だったが、加えて駐車場やトイレ、遊具、ベンチなどの設置の有無の情報を掲載し、マップをクリックすると公園の情報がわかるという仕組みを作った。

皆川市長

本来のテーマから離れるところがあるが、ソライの利用料軽減を検討していく過程で、小さいお子さんをお持ちの方から、託児などを充実した方がいいのではないかという声を聞いたことがある。こどもまんなか社会は遊び場だけに留まらず、託児なども含まれるが、そうしたことに意見をいただけるとありがたい。

委員

移住してきたお母さんが、土日に預けられる場所がない、こども一人ひとりとの時間が欲しいが、どうしても下の子に手がかかってしまうという話をしている。

プレーパークでもお母さんは下の子につきっきりになってしまうので、思い切り遊ぶであろう上の子が一人で遊ぶことになってしまう。もし屋内に小さい子向けのスペースがあって1時間でも託児してもらえれば、自分を含め、お母さん達は使いたいと思う。安全面で心配な面もあるので、下の子は、保育士など資格を持っている方にみていただきたい。

議長

プレーパークに複数のお子さんと一緒に来て、まだ手のかかるお子さんの託児があればいいというニーズもあると思うが、今プレーパークを行っているところではどのようなやり方をしているのか、仲先生に教えていただきたい。

仲アドバイザー

基本的にプレーパークは、自分の責任で自由に遊ぶところなので、託児という考え方は難しいところがある。

もともとプレーリーダーは、ケガに対する安全のために大人が必要だということで配置され、こどもの遊び方がどんどん発展していく中で遊びの指導がクローズアップされてきた。プレーリーダーの最初の役割が「見守り」だったという本質に立ち返り、鶴岡らしいプレーリーダーのあり方を議論し、決めていく方法はあると思う。

世田谷では、小さいお子さん達のための小屋のようなものを作って、親同士がお互いに見守り合い、そこで少し悩みを共有するという動きもある。こうでなければならないというこ

とはなく、鶴岡にふさわしいやり方を作っていけるといい。

委員

昔は下の子を祖母に預けて上の子を連れて遊びに行ったり、隣の家で頼んだりしていたが、鶴岡も核家族化が進んでいて、こどもの遊ばせ方もどんどん変化しているのではないかと。3世帯がベースになっている社会構造が次第に終わりを迎えてきて、それに合わない郊外の人達は都市部に出ていく。都市部ではこどもを見てくれる人が少ないということがあるので、今の社会構造に合わせた遊びのあり方をしっかりと頭に入れながら、設計をしていくべきと思う。

プレーリーダーが託児をするというのは職務が違うと思うが、例えば保育士などと連携してやっていくことは、これからの鶴岡の遊びを作っていく上では大事なことであり、プレーリーダーの構成員の中にそうした方々もいて、保護者の課題なども解決できるように進んでいくことが、健全な姿ではないかと思う。

(3) 令和7年度の公園遊具の整備について

議長

(3) 令和7年度の公園遊具の整備について、事務局の説明をお願いします。

事務局（都市計画課長）

令和7年度の公園遊具の整備について資料3により説明。

公園遊具の整備箇所については、遊具や公園の状況、要望の有無、地域のバランスなどを評価して優先順位をつけて決定しており、本年度更新する遊具は、西部公園のすべり台とネットクライマー、北田公園のブランコ、道形公園のすべり台を考えている。

整備内容案は、近隣の保育園や身体障害者福祉協会などから事前に意見を聞いて選んだ複数の案を提示し、子供会や公園利用者などにアンケートを行って決定する。アンケートは7月下旬から1ヶ月くらいを予定しており、遊具を10月頃に発注、来年3月までに完了を予定している。

委員

松並町には大きい公園と、小さい農村公園の二つの公園がある。小さい公園は、草刈りはしているが、遊具も老朽化し荒れている。トイレは近年新しくしてもらい、近くのサイクリングロードを通る人などがよく使っている。以前は近くの住民や保育園児が来ていたが、最近は大い公園に行くようだ。

大きい公園は桜の木の根が張ったりしてデコボコしていて、直していただくようお願いしている。高齢者がグラウンドゴルフをしたり、こども達も遊んだりしているが、壊れた遊具も

あり、修理の要望を出しているがなかなか手が回らず、誰か寄付してくれる人がいたらいいな、という話も出ている。

議長

遊具自体が安全を保てないものであれば撤去という方法もあると思うが、市の考え方はどうか。

事務局（都市計画課長）

遊具の安全点検をして、危険な遊具は撤去したり、使用禁止のテープを貼って使えないようにしたりしている。修繕や更新の要望に対しては、整備する優先順位を決めて計画的に進めている。

地盤がデコボコしているところは使いにくいと思うので、現地を確認して補修をする。

委員

遊具の候補3つのうち、アンケートをとって1つだけというのでは子どもたちが可哀相なので、どうせなら3つ作ってやってはどうか。予算の関係もあるので、企業から支援してもらったり、寄附してもらったりする方法もある。

皆川市長

予算を何にどう使うかは大事だが、お金をどう集めるかも重要になってくる。市では最近、松くい虫被害対策や猫の去勢手術などのクラウドファンディングに取り組んでおり、遊び場整備もこれに馴染むと思なので、クラウドファンディングや企業版ふるさと納税による財源確保も検討するなど努力していきたい。

委員

設置する遊具は安全面を考えて選定すると思うが、古くなったり破損したりしている遊具も危険だが、高さという視点で危険になる遊具もある。例えば、資料にある西部公園のすべり台は築山になっているので、落ちてもちよっと転がるくらいだが、道形公園のように地面から高さのあるすべり台は、落ちるとケガをしてしまう。

アンケートで数が多かったものを選んでただニーズに応えるということではなく、落下の危険やこどもの動きを考えて選定するようにしてほしい。

議長

遊具整備にあたっては、利用者や近隣の町内会等を対象にアンケートを行うようだが、安全面からの配慮も含めて検討をしてほしい。

今日の協議会全体を通して、仲先生と皆川市長から感想をお願いしたい。

仲アドバイザー

公園遊具の整備について、こどもに意見を聞いて、アンケートでシールを貼ってもらう方法は、こども基本法第11条のこどもの意見表明・意見反映に該当し、とても良いプロセスで決められていると思う。

一方、こどもは体験せずに写真で選ぶことになるので、多数決で一番多い遊具が、本当にこどもが望んでいるものかどうか判断しなければならない。なぜこれを選んだのか、こどもなりに理由はあるので、そうした声にも耳を傾けてもらいたい。

今日の会議は、はじめは、ちょっと残念だったというスタートだったが、終わってみれば、こどもにとってどのような遊び環境が必要かという深い議論をしていただき、自身も大変勉強になった。議題にあったプレーパークは東京でも話題になっており、多くの人が関心を寄せている。道の駅温海の屋外遊び場の紹介もあったが、全国で道の駅整備が進められており、こども関連施設を併設するところが非常に多く、鶴岡でも検討が進められていることを知った。

最初に市長から、具体的にリアルな議論をしましょうという話があったが、廃校を利用した地域の身近な遊び場や、一つひとつ丁寧に声を拾い上げていく公園遊具の整備など、議論にあがった全ての場所をピックアップして、課題として指摘された「遊び場整備構想」に反映させることが重要なのだろうと思う。

私達の思いが消えてしまわないように、3回目の挑戦がぜひあるようにと願っている。

皆川市長

ソライの件は、もともとの経緯もあって市民の皆様にもわかりづらいところがあり、意見が割れる形になってしまった。議員も思いは同じだが、まだ課題が残っているということだろうと受け止めている。東北一広いエリアの中での遊び環境整備ということで、今日の会議では重要な指摘がいくつもあり、それを踏まえて、日々の取組や構想づくりを進めていきたい。

5 その他 事務局（子育て推進課長）

事務局から今後の進め方についてご説明する。

次回の協議会は、12月か1月頃の開催を予定している。

また、秋にはプレーリーダー養成研修課と一日プレーパーク体験を予定している。実施が決まったら皆様にお知らせするので参加や見学をお願いします。

6 閉会 事務局（子育て推進課主幹）

—午後4時5分終了—